

成塊也、鍊樟腦法、用銅盆以陳壁土爲粉、糝之、却糝樟腦一重、又糝壁土、如此四五重、以薄苛安土上、再
用一盆覆之、黃泥封固於火上、欸々炙之、須以意度之、不可太過不及、勿令走氣、候冷取出時、則腦皆升
于上盆、如此升兩三次、可充片腦。

是ヲ龍腦ニ交テ渡ス者アリ、又日本ニモ誤テ氷片腦トスル也、不可不細辨。

〔日本山海名物圖繪〕樟腦製法

くすの木と云もの二品あり、樟は木の心赤黒く香つよし、楠は香すくなし、木の心赤黒からず、是
には大木多しく、さりては岩と成也、樟腦は樟の根をはずり取て、其こけらを釜にて煎する也、小
屋の内に二十四釜をかけ、二通にする也、一通に十二釜づゝ、せなか合せにして、間三尺ばかりあ
け、其間を往來するやうにこしらゆる也、釜のふたは鉢也、釜と鉢との間を土にぬりて、いきの出
ざるやうにする也、其ふたへたまりたる露、則樟腦なり。

〔採藥錄〕樟腦

薩州隅州ニ多ク出ス、一種ニシテ腦ノ有ト無アリ、先ヅ大樹ノ根木ヲ斧ニテ薄ク屑トシテ試ル、
腦アレバ斧ニテ盡ク屑トシ、木甌ニ入レ蒸也、木甌ノ上ニ瓦ノ蓋ヲ載セ、蓋ノ下ニ白ク霜ノ如ク
著ク、之ヲ掃キ取リ、壺中ニ收ム、若シ風ヲ見セシムル時ハ化シテ已ニ盡

〔渡邊幸庵對話〕一生腦は楠の脂也、夫を焼たるもの也、龍腦は生腦を七度焼にしたるを片腦とい
ふ、是龍腦也、燒様天目を蓋にして焼、其湯氣上の天目に付たるは片腦也。

〔本草辨疑〕龍腦

今所渡ノ者二種アリ、梅花ト云ハ白ク透明シテ雲母片ニ似タリ、上品ナリ、ミドリト云ハ、胡麻鹽
ヲ見ニ似テ、黒者交リ色ウルミテ細ナリ、下ナリ、香具ニ用ベシ、服藥ニハ不可用、又一種樟腦ヲ交
ヘタル者アリ、ヌレタルヤウニシテ、色ウルミ白シ、眞ハカラクト乾テ白シ、又カドナクシテ圓